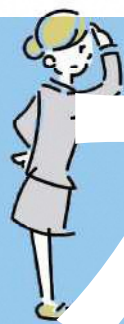


オンライン
100人女子会
プロジェクト
—レポート—

やまがた暮らしの女性の



女性の本音 その1

オンライン100人女子会

「仕事」「家庭生活」「地域・暮らし」をテーマに対話

女性の本音 その2

インターネットアンケート「女性の暮らし方・働き方に関する調査」

山形県の生活の満足度

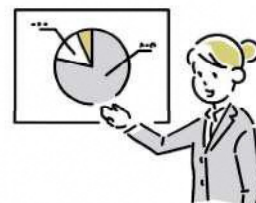
仕事や暮らしの中でのモヤモヤなど

目次

01	「オンライン100人女子会プロジェクト」とは.....	P2
02	オンライン100人女子会.....	P3
03	山形県の女性の暮らし方、働き方に関するアンケート調査結果.....	P9
04	実行委員会の声.....	P15
05	女性も幸せに暮らし働ける山形県のために.....	P16

「オンライン 100人女子会 プロジェクト」 とは

01



はじめに

近年、若者、特に女性の県外転出は男性の1.5倍と顕著になっています。今年度、県では、当事者である女性が、山形県で暮らし働くことについて、どのように考え、どんなニーズがあるかを調べるため、オンライン100人女子会プロジェクトを実施し、レポートとしてまとめました。

誰もが働きやすい・暮らしやすい山形県に向けて、身近なことからはじめるヒントにしていいただければ幸いです。

プロジェクトの概要

若年女性の県内定着・回帰に向け、オンライン100人女子会の開催やアンケート調査による「若年女性の声」から女性をとりまく現状・ニーズを把握し、女性も男性もいきいきと暮らし、働ける環境づくりに活かしていくことを目的にしています。

主なプロジェクト内容



オンライン
100人女子会



山形県の女性の
暮らし方・働き方に
関するアンケート調査



オンライン100人女子会
プロジェクトレポート

この事業は、実行委員とともに進めました。

県では、このプロジェクトとともに考え、進めてくださる方を実行委員として募り、県内外在住の男女14人に協力いただきました。

実行委員には、オンライン100人女子会での進行役や振り返り、とりまとめを担っていただきました。

【年代】：10代1人、20代6人、30代3人、40代4人

【職業】：会社員8人、会社役員、フリーランス、公務員、団体職員、学生2人



実行委員への参加動機(一部)

いまだに男女間格差が強い地方にあって「帰ってきたい」と思えるような魅力のある故郷にするには何が必要か？を考えたい。(40代・会社員)

生まれた時からずっと県内に住み、県外に住んだことがなく、田舎者だから都会にはすごく憧れがある。自分の中でも何かが変わるきっかけにしたい。(30代・会社員)

山形がより住みやすく、生きやすい地域に変わるために、学生ながら何か出来ることはないかと思った。積極的に地域と関わっていききたい。(10代・学生)

オンラインで100%仕事をできるようになり、長年離れていた地元へUターンした。私のような働き方や外を知っているからこそそのマインドを、これからの山形の女性達に還元したい。(30代・フリーランス)



女性活躍や男女共同参画に関する業務を担当しており、「女性活躍」についてよく考えるようになったが、同世代の女性がどんなことに悩んでいるのか、どんなことを必要としているのかを把握したいと思った。(20代・公務員)

地方都市にはいまだに家制度・家父長制的慣習が脈々と残っていると実感している。その慣習は、結婚や子育てなど女性のライフイベントに大きく関係していて、女性から見ると息苦しさを覚えるのではないかと考えている。少しずつそういった慣習を変えていき、都市部に出た女性でもUターンして、仕事を得るだけでなく家庭を持つことまで希望を持ってほしい。(40代・会社役員)

オンライン 100人 女子会

県内外の女性の皆さんから、やまがた暮らしのホンネを意見交換する「オンライン 100人女子会」を開催しました。

日時：令和3年9月26日(日)13:30～16:00
場所：オンライン

参加者データ

【参加人数】102名
【年代】～20代：43%、30代：35%、40代～：22%
【居住地】県内：84%、県外：16%
【職業】学生：15%、社会人：85%

contents

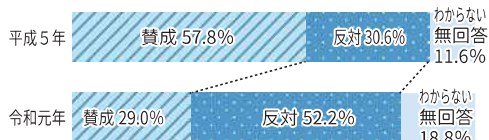
オープニングセッション 「わたしと山形暮らしの過去・現在・未来」

はじめに山形県の現状や、私たちをとりまく社会や世界の動きを共有し、今、私たちが立っている「現在地」を確認しました。

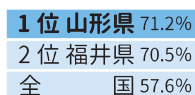
数字でみる山形県の現状

固定的な性別役割意識は徐々に解消に向かっています。また、仕事と子育てを両立しながら男性とともに地域経済・社会をけん引しています。

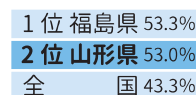
【夫は働き、妻は家庭を守るのが良い?】※1)



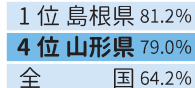
【共働き率】※2)



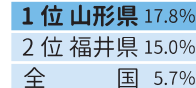
【女性の正社員の割合】※3)



【働くママの割合】※4)



【三世帯同居率】※5)



※固定的な性別役割担意識とは
個人の意思や能力に関係なく、性別により役割を固定的に決めつけてしまう考え方のこと

社会・世界の動き

持続可能な開発目標 (SDGs) ゴール5
「ジェンダー平等を実現しよう」
日本のジェンダー・ギャップ指数 120位/156ヶ国中※6)



数字には現れていない山形県の動き

山形県内で、従来の「普通・常識」にとらわれず、自分らしさを大切にする新しい生き方や働き方として、「エンジニア・デザイナー以外の職種のフルリモートワークをしている会社員」などを紹介。

メインセッション ～私たちの明るい未来のために～



コーディネーター 井東敬子さん
(鶴岡ナリワイプロジェクト 代表)

少人数のグループになり、「仕事」「家庭生活」「地域・暮らし」の3つのテーマで、対話形式で自由に語り合いました。



PART1 仕事 (P4.5)

PART2 家庭生活 (P6.7)

PART3 地域・暮らし (P8)

参加者アンケートより

いろんな意見や共感できることもあって参加してよかった。

普通に生活していれば出会えなかった方と山形への思いを交換することができて非常に充実した時間だった。

若いうちから結婚・出産経験者の話を聞くのはいい機会だと思った。

置かれた状況が違っても色んな見方ができるし、逆に共通で困っていることだったり、こうしてほしいと感じていることがあると知ることができた。

今回のオンライン女子会のように、日常生活のこと、日頃思う様々なことを「吐き出し」自分自身を認め、他者の価値観を認め合う場が必要。

参加前よりも
「山形県で暮らし働くこと」
に対して希望を感じた
73.6%

ホンネを言えた
96.2%

出典： ※1) 「県民の意識調査結果報告書」(H5)、「ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」(R1) (いずれも山形県)をもとに作成
※2,4,5) 「平成27年国勢調査」(総務省)
※3) 「平成29年就業構造基本調査」(総務省)
※6) 「グローバルジェンダーギャップレポート2021」(世界経済フォーラム)

皆さんの会社はどっちですか？

働きやすくなっている

- ・職場での男女の役割が平等になってきている。男性もお茶くみや掃除などをするようになる等変化に希望が持てる。
- ・女性上司も女性社員も増え、働きやすくなっている。

当然のように“女性らしさ”を期待される違和感

- ・「女性らしい発想を期待している」と言われ、「私らしさ」よりも「女性らしさ」を求められることに困惑した。
- ・宴会でのお酌、料理の取り分けを指導されたことがあった。
- ・企画の提案で「女性が『可愛い』と思えるもの」を考えてほしいと言われ、「女性 = 可愛いものが好き」という考え方や女性らしさを求められることにとっても違和感がある。



古い体質の会社もまだ残っている

- ・「女性だけが制服」「組織的に女性の仕事は補佐的な内容だけ」という面がまだにある。
- ・民間企業に10年勤務しているが、職場は男社会で女性管理職はゼロ。

実は、

山形県は昇進している女性が多い

企業における女性管理職割合(R2)(課長相当以上)



出典：「雇用均等基本調査」(厚生労働省)
「県労働条件等実態調査」(山形県)



実行委員会の声

私が社会人になった頃と比べて職場は全然変わった。いろんな人が声をあげたことで社会全体が変わってきたのだと思う。

県内で働いている人の声をもっと聞きたい

- ・「山形には仕事がない」は思い込み。高校までにどれだけ山形を知ることができるかが大切。
- ・求人票だけで判断するのが難しい。実際に働いている人の生の声が聞きたい。
- ・高校生などの若いうちから、いろいろな世代の女性と話せる機会を増やして、選択肢や視野を広げられたら良いと思った。
- ・高校生以降も職場体験などがあればいいなと思った。



「安定した仕事」を期待されている

- ・祖父母世代は特に「安定した職に就くのが良い」と考える人が多い気がする。私もそう思う時もあるが、やりたいことにチャレンジしたい。
- ・フリーランスの仕事なので、日中家にいると、ご近所に「あの奥さんは何しているんだ？」と言われる。いろんな働き方があっても良いのと感じる。



県内では女性が仕事で活躍するのは難しそう？

- ・山形に住み続けたいけれど、山形でどういう仕事ができるのかわからず、希望が持てない。
- ・製造業が多いなど、職種の偏りがあり、女性が仕事で活躍するのは難しいのかなと思う。
- ・若い世代が活躍している企業が少ないと思う。
- ・山形が好きなので、好きな環境で働けることは嬉しいが、賃金が低いことや仕事の種類が都会より限られることにマイナスのイメージがある。

私たちの今、そしてこれからの働き方

- ・今は SNS やオンラインで出会いの場が広がり、人脈が作りやすくなった。リモートが進み、山形にも意外と面白い企業が増えている。
- ・将来は山形と県外に拠点を持って活動したい。今は、パソコンさえあればどこでもなんでもできる時代。働く価値観も様々。

優秀な人が多い一方で きちんと評価されていない

- ・山形の女性は優秀な人が多い（仕事をきっちりこなす、段取りよくしている）のに、県内では評価されていないことを県外に出て痛感した。

賃金が低い

- ・就職活動で大卒の給与の低さに驚いた。
- ・都心部と比べて10万円ほど月給の差があり、金銭面を考えると山形で働きにくい。

転職しながらキャリアアップ できる環境が欲しい

- ・1つの企業で長く働く人が多いイメージだが、もっと転職がキャリアアップにつながる環境になってほしい。
- ・「転職＝ネガティブ」というイメージが残っており、人材が流動していない気がする。

キャリアや希望にあう仕事が少なそう

- ・高学歴でキャリアがある人がUターンしたいと思ったときに経験を活かした就職先を探すのが難しい（給料の格差もある）。
- ・職種が少なくやりたい仕事を見つけるのが難しい。

山形の女性の賃金



女性労働者(正規雇用+非正規雇用)の所定内給与

	全国順位	金額	全国一位(東京)
H29	43位	206.2千円	303.0千円
H30	45位	206.6千円	300.6千円
R1	46位	204.0千円	305.8千円
R2	42位	213.9千円	302.7千円

出典：「令和2年賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)

給与額及び全国順位は、年々低下



実行委員会の声

若年女性に、山形県内での仕事がよく知られていないのかもしれない。また、〇〇業・〇〇職しかないといった偏ったイメージを持っており、そのイメージと自分の理想・希望が違うことで、山形県で働くことに希望が持てないのでは？

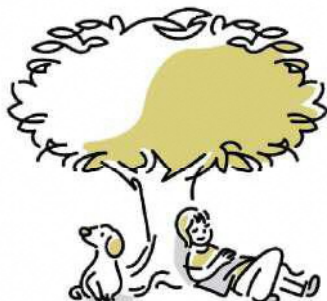


実行委員会の声

上の世代は、賃金が低くて苦勞してきたからこそ、心配して安定を望むのかなあ？地元で女性が活躍するためにも、経済的自立にも、年収アップは必要だと思う！

子育てもキャリアも大事にしたい

- ・山形県は子どもを生むにはいいところ。だけど、子どもも生みたいし、価値ある仕事も手掛けたいし、子育てと仕事を両立したい。それを上司にわかってもらえず退職した。女性のやる気を応援してほしい。
- ・妊娠・出産は女性にしかできないので、仕事をしていても休暇は取らざるを得ないし、若いうちから妊娠・出産を考えてキャリアを組み立てないといけないが男性とは違う。男性の中には“子育ては女性にまかせればいい”と考える人もいて、不平等さを感じる。



山形県にUターンしたい♡

- ・県外就職した新卒当時は、いつかは帰りたいけどそれ以上に新しい出会いに期待を寄せて、まったく知らない地域で働いてみたい気持ちだった。自分に合った環境ならば永住してもいいかなとも思っていた。今は、山形に帰れたら帰りたいけどその糸口がつかめない。
- ・コロナ禍で、都会での生活に寂しさを感じている。家族や友達がいるアットホームな地元に戻りたい。

就職するなら都会？それとも山形？

- ・コロナによる生活の窮屈さを感じて、山形で就職した。
- ・就職試験の挨拶で山形の人はあったかいなと感じて一緒に働きたいと思った。これがきっかけで山形に就職を決めた。
- ・仕事だけでなく私生活も楽しみたいと考えたときに都会は魅力的に感じる。
- ・東京でOLになって便利さやおしゃれさなどを見てしまうと、山形に帰ってどんな仕事ができるんだろうと東京と比べてしまう。こうした現状が首都圏進学の大学生でUターンが少ない原因かと思う。



多様な女性の「生き方・価値観」を受け入れてほしい

- ・周囲の友達は、「早く結婚したほうがいい」などの上の世代からの声で嫌で県外に行く人が多い。
- ・東京にいる男性と別居婚や事実婚、夫婦別姓を考えているが、山形では昔ながらの価値観が根強く、親の説得や、やりたい仕事をやりながら、夫婦で家事も子育ても分担することへの周りの目線など、山形での家庭生活に不安を感じる。

令和時代の「当たり前」って？

- ・「家庭」には、結婚している人や子育て中の人だけではなく、1人暮らしで働く独身者も含め、いろんな形がある。様々な家庭の形が、女性の活躍や自分らしい仕事につながると思う。
- ・地元の30代の男性が、「長男だから親と同居しないとイケないのに、妻に拒否された。離婚するかも。」と話しているのを聞き、古い考えに驚いた。「長男だから同居」は今の時代当たり前ではない。
- ・今の結婚制度は面倒な手続きや名字の問題など、我慢の上で成り立っていると思う。一方、親世代の苦勞を見てきた若い世代は「2人で意見をすり合わせ自分達に合った過ごし方が出来ればいいよ」など、自分らしく生きたいと考えている。

「お母さん」の負担が大きい

- ・(教え子の)女子学生には「結婚したくない」「結婚に興味が無い」という子が多い。理由を聞くと、外ではお父さんもお母さんも働いているのに、家の中ではお母さんだけ動いて大変そうで「お母さんみたいになりたくないから」との答え。
- ・専業主婦の母と公務員の父の家庭で育った。母は自分にすべてを注いでくれたが、母という役割はこんなに我慢しなければいけないのかと思うことがあった。東京に進学し、女性も自分がやりたい仕事をやっていいと気づいた。
- ・若い世代に、「家庭のことは女性の役割で、それを放り投げたら周りからどう言われるかわからない」という価値観がすりこまれている。妻・母の役割に世間からの評価も加わり、母親は二重三重に我慢しているイメージになっている。

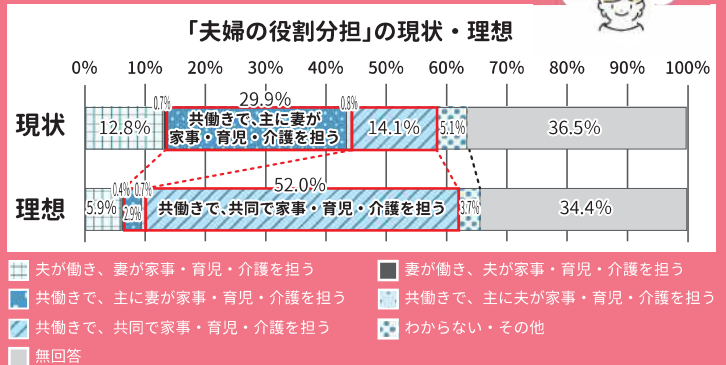


山形の男性は育児に協力的、でも…

- ・小児科に子どもを連れてくる男性をよく見かける。県外では見なかった。山形の男性は育児参加が進んでいると思う。
- ・周りでも育児参加している男性が多い気はするが、家事を主に進めるのは女性という考えは消えていないと思う。



理想と現実にギャップあり



実行委員会の声

若い人ほど育児に協力的で抵抗がない反面、年配の方の理解が進んでいない。この状況を変えるには、自治体などが率先して取り組む必要があると思った。

仕事と家庭生活の 両立は大変...

- ・家事、育児と仕事との両立は大変だった。育児も家事もやって、働きたいならどうぞという環境。自分の体調が悪くても子育てに対する夫の協力はなかった。仕事を辞めたいと何度か思った。
- ・山形の女性は仕事、家事、子育て、介護と自分を酷使しており、自分にかかるお金や時間がない。かわいいや美しくなりたいことに諦めを感じた。

平日1日あたりの仕事・家事・育児時間



「ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識調査」(R1) (山形県)を元に睡眠時間(8時間と想定)を除いた16時間の内訳として作成

男性ももっと 育児に参画してほしい

- ・育児休暇を取得する男性はいまだに少なく感じる。若い男性が取りやすいように、**男性上司の理解や考え方を変える機会**を作してほしい。
- ・産後や一番手がかかる時期にもっと育児に参加してほしいかった。
- ・初めての育児で自覚症状がないまま育児ノイローゼになっていた。男性もある期間だけでも育休をとって一緒に子育てや家事をしてくれたら、お互いの苦労や相手を思いやる余裕もできるのでは？



実行委員会の声

共働き率が高いのに家事の負担は女性が圧倒的に多い。男も女も関係なくお互い支え合って生きたほうが良いと思う。

子育て・教育環境について

自然・温泉・子育て施設が充実

- ・子どもを遊ばせる場所として、山形は自然が多いためコロナ禍でもあまり困らない。
- ・山形の近県に在住し、月1日程度山形に帰っているが、山形は**子どもが遊べる施設が充実**していて魅力的。山形市から30分圏内にたくさんの公園がある。遊具や芝生もあり、駐車場も整備されている。
- ・山形のアウトドアは落ち着ける雰囲気があり贅沢に感じる。**山や川など、自然環境にも恵まれている**。温泉がたくさんあるのも魅力。



もっと充実させてほしい

- ・人口が少ない市町村では子育て支援センターなどの施設があまり充実してない。
- ・**教育の選択肢が少ない**。子どもの教育環境だけを考えたら、都会の方が良いかも。
- ・コロナ禍で出産入院中も面会できず、出産後も交流も少なく、全てを自分1人でやらなければならなかった。退院後のケア等、行政サービスをもっと手厚くして欲しかった。

山形県の子育て環境

子育て支援拠点は、
全市町村あり

計 **109カ所!**

人数(0~4歳児)あたりの
拠点数は

全国**トップクラス**



地域の子どもをみんなで育てる雰囲気がある

- ・高校の時、地域の人がよく見ていてくれると感じた。田舎ならではの、ほっこりした。
- ・山形の地域性として、過干渉な面もあるが、みんなで子育てしていこうという雰囲気は働きやすさや生きやすさにも関わってくると思う。
- ・山形は地域みんなで子育てを支えようという意識、気概を感じる。みんなが子どもをかわいがってくれる。

つながり・助け合い、それが山形の良さ

- ・コミュニティが狭く、自分を良く知ってもらってるからこそ、産後に自分に合った良い職場を紹介してもらえた。
- ・地元では当たり前前の町内会での芋煮会やビアガーデンが全国的に一般的ではないことを知った。地域のつながりはあたたかいし、そのつながりがあるから助け合いの気持ちもあるし、それが山形の良さかなと山形を出てから思った。

地域の活動を見直してほしい

- ・地域行事（消防団・土手の草刈り等）で義父の負担が大きく人手も足りない。女性に力仕事は大変なので、地域を助ける仕組みが欲しい。家庭の家事を分担するように、村の仕事も見直していけないかと思う。
- ・町内会、老人会、子ども会で折り合いをつけるのが難しい。年配者や長く住んでいる方が活動を残したい一方、活動に時間が割けないという若い世代の気持ちもある。

学生と地域のつながりが欲しい

- ・遊び盛りの年代にとって娯楽が少ない。学生の溜まり場のような所が少なく、もう少し学生の頃を楽しめていたら県内にいたのかなと思ってしまう。
- ・子ども会は中学生までであり、卒業後は成人式まで地域との繋がりが無い。学校と地域のつながりを途絶えさせないためのコミュニティが欲しい。学生と大人が話せる語り場などが欲しい。

田舎のコミュニティは一長一短

- ・小さな集落に住んでいるため、皆が憶測で噂話をしている。余計なお世話であり放っておけばいいのと思う。しかし、困ったときに助け合えるというメリットもある。
- ・田舎だと干渉が多く、他人の家庭環境を周りが良く知っている。地域が狭く、ありがたい面もあるが、プライバシーがないと感じる。
- ・「村社会は何でも筒抜け」という悪い面もあるが、困ったときはお互い様という良い面もある。子育てを経験したおじいちゃんやおばあちゃんがすぐ側にいるという環境にある。



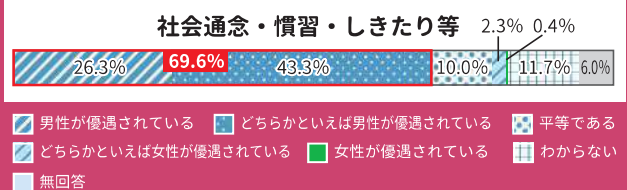
実行委員会の声

仕事の分野に比べて、地域には男女格差が残っていると思う。

若者・女性の地位が低い

- ・集落の総会に行っても、若い世代は発言させてもらえない。上の世代の方には、若い世代が変えていきたいと思っていることを言いづらい雰囲気がある。
- ・冠婚葬祭や親族が集まる宴席などで、いまだに女性だけが働いている姿を見かける。3世代同居だとなおさらな気がする。
- ・PTAなどの地域団体は、実際活動しているのは女性なのにトップは男性であることが多い。しかし、最近では、役員の名前に女性が並ぶように。時代は変わりつつあると感じる。

男女の地位の平等感



出典：「R1ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」(山形県)

男性優遇と感じている人が多い

交通環境はいまひとつ 食べ物・自然が豊富

- ・電車やバスの運賃が高く、遊ぶ場所が限られている。
- ・何も無いのが落ち着く。
- ・アウトドアが好きだから、山形は最高の環境！
- ・食べ物が美味しい。自然も豊かで、都会にいる時よりもリラックスして伸び伸び過ごせる。東京に帰るとストレスフルな生活で窮屈になるので、いつかは山形に帰りたい。